



SHIBUYA FASHION & ART COLLEGE

渋谷ファッション&アート専門学校
文化専門課程 入学案内
2025

絵画／日本画／彫刻／版画

SHIBUYA FASHION & ART COLLEGE GUIDEBOOK 2025



美術を志す全ての人に 学びの場を。

クリエイティブシティとして変貌著しい渋谷の地で、
本格的に美術を学ぶことが出来る場、それが本校のアートの専門課程です。
新たな文化やトレンドを生み出し続けている渋谷・原宿エリアの中心で、
60余年にわたりファッション業界に有為の人材を数多く送り出してきた
伝統をもつ本校だからこそ、あえて生身の手による創作にこだわり、
ファインアートを中心に本格的な美術教育を行う専門学校として
2018年にスタートいたしました。
美術への想いを持つ方ならどなたでも歓迎です。
これから美術の道に進みたい方、美術の大学・大学院を目指す方、
社会人として活躍する傍ら美術創作にチャレンジしたい方、
仕事や子育てが一段落し新たな自己実現を美術に見出したい方など、
年齢・経験・国籍を問わず門戸は幅広く開かれています。
美術を学びたい方、美術に興味のある方は、
ぜひ本校の扉をたたいてみてください。



渋谷ファッション&アート専門学校 校長
志賀健二郎 Kenjiro Shiga

本格的に美術を学ぶ。

公式サイト／学科・コースについて
shibuya-and.tokyo/art/a-course/



本校の特色

4つの専門コース

本校の文化専門課程では、絵画（油彩／アクリルなど）、日本画（岩絵具／水干など）、彫刻（粘土／木／ガラスなど）、版画（銅版画／木版画／リトグラフ）の4つの中から希望のコースを選択することができます。

1年制のカリキュラム

3つの学科ごとに1年間で学ぶカリキュラムを用意しています。1年間学んでみて、翌年再入学するかどうかをご自身で選択し段階的に学ぶことができます。

※高等学校卒業以上または同等の学力があり、学習意欲のある方であれば年齢・経験に関わりなく出願できます。
また、外国人の方も日本語での授業に対応できると判断されれば入学が可能です。

学科・コースについて

絵画コース

油彩／アクリルなど

日本画コース

岩絵具／水干／顔彩／紙本／絹本／箔など

彫刻コース

粘土／木／金属／ガラス／テラコッタなど

版画コース

銅版画／木版画／リトグラフ

3つの学科

各コースは美術表現科、造形表現科、表現研究科とレベルごとに3つの学科に分かれており、その中から目的に合わせて最適な学科を選択することができます。

週4日通学

月曜日～木曜日の週4日を通学で学びます。

授業時間：9：30～16：20

（昼休み12：30～13：20）

総授業時間：年間800時間以上

※夏季・冬季・春季休業があります。
※学生証が発行され、学割の便宜を受けることができます。
※国立美術館のキャンパスメンバーズに入会しています。学生証の提示により対象の国立美術館の常設展は無料、企画展は団体料金で鑑賞できます。

基礎

美術表現科

- 美術を初めて学びたい
- 美術を基礎から学びなおしたい

美術を初めて学ぼうという方、以前美術を勉強したが改めて基礎から学びなおしをしたいという方のための学科です。
デッサンの初歩から始めます。1年の間に造形力と表現手法の基礎を身につけ、作品を制作し発表することを目標とします。

1年間

共通授業 美術を学ぶための基礎力をつける

全コース対象

共通授業は4つのコースの学生が合同で受ける授業です。3学科それぞれの目標値に沿ったデッサンやクロッキー、画面構成、色彩構成、塑像などの課題制作を通して、どのコースにも必要な観察する力・構成する力・発想する力・広い視野・表現する技術といった「美術を学ぶ基礎力」を養います。
他コースの学生と一緒に授業を受ける事でお互いが刺激となり、表現の幅の広がりや共通性の発見にも繋がります。また、自由選択で美術館作品鑑賞など美術全般に関する知識を学ぶこともできます。

▶ 共通授業の詳細は、P.21をご覧ください。



応用

造形表現科

- 技術や表現の幅を広げたい
- 美術表現科を修了済
- 系統的に美術を学んだ経験がある

本校の美術表現科を修了された方、他の美術系学校を卒業している方、ある程度系統だった美術教育を受けた経験のある方のための学科です。
基礎造形力を基盤に、様々な技法や様式を身につけることを目標とします。

1年間

研究

表現研究科

- 自らの表現を研究して制作したい
- 造形表現科を修了済
- 上記と同等の実力がある

本校の造形表現科を修了された方、それと同等の力があると判断された方が対象です。
より難易度の高い手法・技術を身につけ、より個性的な自分だけの表現を確立し、それを深化させていくことを目標とします。

1年間

▶ P.5

▶ P.9

▶ P.13

▶ P.17



あなたにしか描けない

絵の表現を。

平らで無垢のキャンバスに一本の線を引くと大地と空の境界が生まれます。そこに色彩を与えると光に輝く草原や大空が生まれます。さらに筆の運びを工夫すると風や空気の揺らぎが生まれます。

絵を描くことは、「平面」としての画面に自分だけの世界や無限の空間を自由に建ち現わせることが最大の魅力と言えるでしょう。そして、その制作過程には多くの驚きや喜びもあります。

モチーフを観察する中で、視点を変えることで多様な表情変化に気がつくことがあるでしょう。パレット上で絵具を混ぜるうちに、思いもよらなかった色彩に出会い心躍ることもあるでしょう。絵具と描き具の組み合わせにより現れる多様な描線は、子どもの時のような純粹に線を導き出すことの喜びを思い出させることもあるでしょう。これらのプロセスの中には、あなたにしか気付くことのできない発見や思考があり、その積み重ねがあなたにしか描けない絵の表現として結びつくのです。



絵画コースの学びについて

絵画コースでは一人ひとりが本来持っている「感性」に寄り添い、それぞれの視点や創造性を呼び起こし、発展させることを基にした学びを目指します。本来「絵を描く」ことは、自分が思ったように自由に何をどう描いてもよいものです。しかし、絵を通して「自分の思いをより強く伝えたい」「共有したい」「もっと人や社会と繋がりたい」と思うことがあるでしょう。その時は自分の中に『絵画』を学ぶための準備ができた証拠です。ここでは、あなたが本来持っている独自の造形的感性とは何かを探りつつ、絵画制作における知識や技術・多様な

表現の在り方を学ぶことでより豊かで堅牢な絵画表現へと高めていきます。いずれにしても絵画の制作は、楽しむことが重要です。その為にもあなたなりの多くの造形的試みをし、先に述べたような制作の中における思いもよらない発見や喜びを見つけてみましょう。当然、上手くいかず失敗など多くの回り道もあります。しかしその経験こそが「あなただけにしか描けない絵画」への近道となるはずです。そして、ここで絵画を学ぶ多くの仲間とともに、作品を制作する感動や喜びを分かち合いましょう。

画材と施設

画材：
油絵具、アクリル絵具、キャンパス、筆、ペインティングナイフ、パレット、とき油など
他にも画材の手入れや作品を保護するための道具などたくさんの種類がありますが、一度に揃える必要はありません。授業に必要な道具はその都度説明しますので制作の進行に合わせて買い足していきます。
※デッサンで使用する画用紙と木炭紙は事務室で購入できます。
施設：
廊下のロッカーの他に教室内に1人1つずつ道具箱を支給、画材の保管が可能
制作中の作品は全て学校内に保管
美術表現科では最大30号、造形表現科では最大50号の制作が可能
表現研究科では最大130号の制作が可能（1人につき約2メートルの壁面を使用可）

教員紹介



永井俊一 Shunichi Nagai
イラストレーター
東京藝術大学美術学部デザイン科卒業／株式会社オリエンタルランド勤務 商品デザイン制作・商品アート制作に従事



菊地達也 Tatsuya Kikuchi
洋画家
東京藝術大学大学院修了/サロンド・ブランタン賞/国展 国画賞、新人賞、準会員優作賞/上野の森絵画大賞展優秀賞/セントラル美術館展大賞/昭和会展優秀賞



清水健太郎 Kentaro Shimizu
画家
工学院大学 電子工学科卒業／武蔵野美術学園 油絵科卒業／武蔵野美術大学 助手（通信教育課程研究室）／武蔵野美術大学 講師／（社）二紀会 会員

学科ごとの学習領域

美術表現科

まずはデッサンやドローイングを通して対象への視点や向き合い方、描画材の扱い方などの「観察・描写」と言った描くための基礎を養います。また、油絵を中心とした絵画制作の手始めとして、各種道具の解説や使用法、キャンパスの張り方などから体験します。静物や人体などの多様なモチーフを実際に描き進める中で、油絵具の特性や基本技法、色彩効果、基本的な空間表現などを学びつつ、それぞれの表現意識も高めていきます。

造形表現科

古典から現代までの多様性のある絵画空間や造形的アプローチの制作体験を通して表現の幅を知ると共に、独自の絵画への思考や感性をさらに模索します。より高度な技法や制作に対する知識を身につけることで、一人ひとりに合った絵画表現への足掛かりを構築していきます。

表現研究科

学生自ら打ち出したテーマに沿って研究を進め制作に専念することが出来ます。学生に与えられた個別の制作スペースは個性的で自分らしい絵画表現のさらなる研鑽を重ねる場となります。そこでは制作者としての自立へ向けた指導や、展示発表などそれぞれの目的に合わせたサポートを行っていきます。さらに、年4回、修了制作を入れて5回の講評会を設け、ゲスト講師を招き担当していただきます。コンクールや公募展などの審査では、客観的な目に晒されるのですからその準備とも言えるでしょう。年々、在籍中に個展やグループ展で作品を発表する学生、コンクールや公募展に出品する学生が増え、入選はもちろん受賞者も出てきました。採光に優れ、美しく広いアトリエは制作に集中できる環境となっています。

カリキュラム

春季	静物画・細密画 スペースCTCにてコース展覧会開催 表現研究科中間講評（年4回実施）
夏季	技法演習 平面化とマチエール
秋季	人物画 人体構成
冬季	大型モチーフ 修了制作

※上記は一例となります。

VOICE 在学生の声

良かったこと、大変だったこと

良かったことは、一流の先生方に、色々な形で教えを受けることができたこと。同じ志を持つ仲間と時間を共有でき刺激もらえること。
大変だったことは、一度に沢山のことを教えていただくこともあるので、なかなか消化しきれないこと。中には、何年かしてからやっと理解できることも多々あります。

表現研究科／鎌田隆夫さん



1 表現研究科学生 制作風景 2.6 造形表現科学生 制作風景 3.4 美術表現科学生 制作風景 5 制作風景

日本画コース

Japanese Painting Course

公式サイト／日本画コース
shibuya-and-tokyo/art/a-course/a-japanese/



日本画の表現の
根底に流れるもの。



1 表現研究科学生 制作風景

古来日本人は自然を神として崇めてきました。それは山や滝、大きな岩や木、路傍の小さな石にさえ手を合わせてきた様子からもうかがえるでしょう。

人の生活に恵みを与え、時として災いをもたらす自然に対する感謝や畏れが、日本人の宗教観や自然観、美意識に大きな影響を与えてきました。雄大な景色から野草の風にそよぐ姿、川のせせらぎの小さな音など、私たちの自然に対する感受性は幅広く強いと言えるでしょう。それらから成る美意識は日本画の表現の根底に流れています。

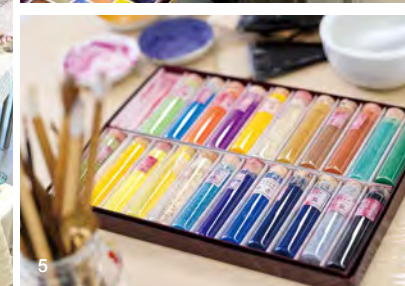
日本画コースでは始めに基礎と考える写生(デッサン)を学びます。まず植物の写生から始め、その観察、構造の把握、描写を通して造形の源となる自然の摂理を学びます。そして自然な形、より良い形を探して描く力を向上させます。次に風景や人物を描き自然の秩序の不変さを認識するとともにそれらが持つ生命感や強さを表現する造形感覚を養います。自然の形は素晴らしいものです。自分でオリジナルな形を作ろうとしても画一的になり、どうしても自分の癖が出てしまいます。植物の茎一つだけを見ても、その動きや太さなどどれ一つをとっても変化に富んだ美しさを備えています。自然の造形から学び、それを自分の形、表現へと発展させていきましょう。



1



4



5



6

日本画コースの学びについて

ワークショップ

日本画独自の表現を学ぶワークショップを定期的に行います。揉み紙や絵具の盛り上げ(ほり塗り)、絵具を流したり、垂らし込んだりといった紙や絵具の表現の幅を広げます。また平らに塗る、ぼかすなどの一見簡単そうでも難しいテクニックや、箔を使ったさまざまな表現を一つずつ学習していきます。技術のバリエーションを増やしていく中で、自分に合ったものを見つけ、それが自分らしい表現につながることを願っています。

(平らに塗る、ぼかし、盛り上げ、絵具流し、垂らし込み、箔研ぎ出し、揉み紙、箔揉み紙、箔焼き、砂子、裏彩色、絵を洗う)

古典模写

古典の模写をする事で先人の筆使いや感性を体感します。美術表現科では墨で描かれた作品の模写をします。造形表現科では彩色のある作品の模写から古典的な絵具の使い方を学習します。これらは日本画を理解する上で重要な経験になるでしょう。

動物画制作

動物は日本画の重要なモチーフとして描かれてきました。ひとくりに動物といってもその対象は幅広く、犬や猫などの身近な存在から龍などの想像上の生き物にまで及びます。前年度には実際に動物園へ足を運び、動物を目の前に写生をして、それをもとに本画制作を行いました。日本画のテーマの一つである「花鳥画」の中から発展した「動物」という題材は生命力を放ち、その力強さ、儚さ、愛らしさは描き手を惹きつけてやみません。

毎日クロッキー

授業の最初に各自がモデルになり、10分ポーズのクロッキーを行います。一番身近で様々な表情をみせる人物を題材にすることは、絵を描く力を向上させるのに最も適していると言えるでしょう。人物にはあらゆる絵の基本が詰まっています。毎日の積み重ねで知らず知らずのうちに描く力・観る力が身についていきます。

画材と施設

画材:

岩絵具／水干／顔彩／紙本／絹本／箔など

施設:

1人1つの制作中に使用できる画材置き。100号以上の大作の制作も可能。ロッカー完備、作品保管スペース有。

教員紹介



武井好之 Yoshiyuki Takei
日本画家

東京藝術大学美術学部絵画科
日本画専攻卒業／東京藝術大学大学院美術研究科日本画専攻修了(修了模写台東区買い上げ)



清水操 Misao Shimizu
日本画家

東京藝術大学美術学部絵画科
日本画専攻卒業／東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術(現保存学)修了／日本美術院特待

学科ごとの学習領域

美術表現科

モチーフの構造を考えながら、丹念に写生をします。そしてそれをもとに、形、構図といった絵を描くための大切な要素をトレーニングしながら制作していきます。また絵具の粒子の違いという個性を持つ岩絵具の独特の使用方法、線(運筆)、ぼかし、等の日本画の筆や用具の基本的な使用方法も学び、古典模写なども通して日本画の伝統的な考え方、技術を学びます。

造形表現科

課題ごとの写生は美術表現科と同様に行いますが、本画制作においてはモチーフから展開したイメージの作品を制作したり、自由な作品を制作したりします。技法的にはワークショップで学習した絵具の使い方のバリエーション(厚塗り、削る、洗う、重ね方、等)を広げるアプローチをしたり、基底材である紙や絹についても学びながら(多くの

種類があり使用法も多くあります)制作していきます。画面サイズも美術表現科より大きいサイズに挑戦し実力をアップしていきます。

表現研究科

日本画の画材の表現方法を研究し、より自由で自分らしい個性的な表現を目指して制作します。表現研究科ではクラス全体としてのカリキュラムは行わず、個人個人の目標に合わせたカリキュラムで制作していきます。学習が進むにつれ自分がやりたい表現がはっきりしてくると思います。そのために必要な技術の習得、習熟を手助けします。また大作への挑戦(画面が大きくなると全てのことが小さな画面の制作と異なってきます)や公募展への出品、個展の開催などの目標に合わせた手助け、指導を行います。

カリキュラム

春季 植物画

風景画

スペースCTCにてコース展覧会開催

ワークショップ(年6回実施)

夏季 古典模写

人物画

秋季 動物画

風景画

冬季 修了制作

※上記は一例となります。

VOICE 在学生の声

入学してみて感じたこと

日本画に限らず、絵画全般における取り組みが良かったし大変でもあった。美術全体への視点の位置を考えさせられた。また、共通授業では自分の視野の拡大に役だった。もし絵を勉強したいとお考えなら、他コースも含め学習する意義は充分にあると思います。

造形表現科／安齋敬一郎さん

1.2.6 表現研究科学生 制作風景 3.4 造形表現科学生 制作風景 5 水干・絵皿・すり鉢など

彫刻コース

Sculpture Course

公式サイト／彫刻コース
shibuya-and-tokyo/art/a-course/a-sculpture/



1

彫刻を学ぶということ。



2

形はどのようにして生まれ、決定されていくのでしょうか。植物や動物など自然の物は、生きるための機能から生じた形を持っています。デザインされた物や芸術作品といった人工的な物も、作者個人にとどまらず、社会・文化など共同体の思考をも反映し、やはりそれではならなかったという形をしています。

しかし、形の背後にある多くの情報や、そのものが抱えている記憶は、見ようとしなければ見えてこないものかもしれません。彫刻を学ぶことは、形がどのようにして決定されていくのかをあらためて見つめ、そこから自分が何を受け取っているのかを知ることに繋がっています。

彫刻コースでは、自身の表現を探究する前に、粘土を使った塑像制作と木彫制作を通して、造形の基礎的な技術を習得します。

塑像は基本的に、作品の中心から表面へ向かって量を付け足していく方法です。一方で木彫は、作品の中心に向かって量を削っていく方法です。

対照的とも言える、これら二つの方法を軸に彫刻を考えます。また、その技術の前提となる、物の形や構造を的確に捉える力を養うために、デッサンを通じて人体など身近な物をよく観察することも重要だと考えています。彫刻の制作では、人体であれば頭部など部分的なパーツから始め、半身像、全身像というように難易度を上げながら技法を学んでいきます。



3

- 1 学生作品「ガニメデス」表現研究科 長村隆
- 2 造形表現科学生 型取りの様子
- 3 人体塑像 (石膏・ジェスモナイト)



学科ごとの学習領域

美術表現科

初めて彫刻をつくる方を対象にしたカリキュラムを組んでいます。人間をモチーフにした塑像では、全身ではなく、興味のあるパーツを部分的につくってみるから始めます。モデルの体を観察する中で、凹凸の深さ、有機的な形のつながり、人間の体の構造などを学ぶことを目標としています。また、彫刻の技術的な面を学ぶには、道具の扱い方を覚える必要があります。教室で扱うことのできるさまざまな素材や道具に触れ、その使い方を習得し、次年度に繋げることができるよう指導していきます。

造形表現科

塑像の基礎を習得している方を対象にしたカリキュラムを組んでいます。美術表現科と同時期に同じ素材で制作し

ますが、より複雑な造形力を習得することを目指します。たとえば人体塑像の課題では、全身像に取り組みます。全身像は、立つ、座るなどの姿勢、体の内部の動勢を捉え、作者が再構築していく力が必要になります。これにより、自主的な制作においても、作品の構成を積極的に構築する力が身に付きます。

表現研究科

学生自身が探究したい課題を見つけ、自主的に制作を進めます。学生のより個別な制作に寄り添った指導をしています。また、美術表現科・造形表現科の学生と同じ教室での制作になります。他の学生のアイデアや制作方法に接することによる相互の学びは、一人で行う制作では得られない貴重な経験となることでしょう。

カリキュラム

春季 空間造形

人体塑像

スペースCTCにてコース展覧会開催

夏季 木彫

動物制作

秋季 人体塑像

冬季 修了制作

※上記は一例となります。

VOICE 在学生の声

良かったこと、大変だったこと

定年後アートをやりたいと思い、学校に見学に行ったところ彫刻の教室を初めて見ました。彫刻はやった事が無かったし、やれる機会も場所も他にないと思い当校の彫刻コースに入学しました。
表現研究科/山下雅己さん

彫刻コースの学びについて

工房制について

大型の立体作品などは、制作工程が長い上、途中での移動が難しいため、作業場所を固定しておく必要があります。そのため工房制という方式で行い、3学科が同じ工房で学びます。題材は共通としながらも、それぞれの学科の課題に応じて技術の学びを深めていきます。

人体像をつくる

この授業では、モデルを観察し、人間の身体の骨格や筋肉の構造を理解しながら制作に取り組みます。たとえば造形表現科の立像制作では、全身の形を統一的に捉えながら、「立つ」という、体が重力に抵抗する力のあり方や、それを塑像でいかに構築するかという点から人体について考えます。

石膏型取りの授業

粘土でつくった塑像作品はそのままでは壊れやすく保管できないため、塑像を制作した後に石膏で型取りして、粘土から石膏の像に置き換える技術を学びます。塑像の制作工程では、外側の

形しか見ることができませんが、型取りの工程では、粘土を抜き取った後の作品内側の形を見ることができます。粘土のポジティブな塊があったところが反転し、同じ分量のネガティブな空間を見ることになります。この経験は、物体と空間の関係について認識を深めることになるでしょう。

空間造形の授業

針金やガラスなどを用いた授業で、はんだ付けの技術が習得できます。線材を用いて立体をつくることにより、輪郭線で把握する平面的な見方から、空間を意識した立体的な見方が自然にできるように導いていきます。

木彫

製材された樟から、鑿(ノミ)、鋸(ノコギリ)などの道具を使って形を削り出していきます。自然の一部である木に触れ、木材の特徴を生かした作品制作を目指します。初めて彫刻をつくる方でも、今までの経験を立脚点にした作品制作ができるように、木彫課題は自由なテーマで制作しています。

画材と施設

画材:

粘土、木、金属、ガラス、テラコッタ、針金など。材料・道具は学校で一括購入をし、販売をしているものもあります。

施設:

床面積104㎡の工房
防音・防塵対策/陶芸窯/等身大全身像などの大作の制作が可能/チェーンソーや鋸など共有備品あり。ロッカー完備、作品保管スペース有。

教員紹介



工藤里紗 Risa Kudo
彫刻家
武蔵野美術大学造形学部彫刻科卒業/東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了



宮原嵩広 Takahiro Miyahara
彫刻家
東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了/東京藝術大学美術学部彫刻科教育研究助手/東京藝術大学美術学部世界展開力事業特任助教



鈴木亘彦 Nobuhiko Suzuki
彫刻家
東京造形大学造形学部美術学科美術Ⅱ類(彫刻)卒業



1 造形表現科学生 制作風景 2,3 表現研究科学生 制作風景 4 ジェスモナイト実習の様子 5 美術表現科学生 制作風景



版を通して

自身の絵を探る。



1

1 造形表現科学生 制作風景
2 表現研究科学生 制作風景



2

ものをつくる、かたちを描く、美術はなにかを伝えるために生まれました。やがてそこには様々な技術と方法が備わり表現としての作品が育ちます。自身の思うように描いてゆく直接技法の絵画とは異なり間接技法の版画には素材と工程が介在することで思いがけない絵が現れることがあります。版画には、これまでの経験では出会えなかった絵の表情や発見が待っています。

伝統的な版表現技法である「銅版画」「木版画」「リトグラフ」の3版種を様々な技法や異なるサイズで1年間を通して学び、自身の表現に合った制作につなげていきます。

書籍や印刷と近い出自を持つ版画作品は美術作品としてだけでなく、絵本や装丁・挿絵などへの展開につながることも多く、新たな制作と発表の可能性が広がることでしょう。

版画コースでは、「全国大学版画展」へ参加をしています。この展覧会は全国の美術大学・大学院から選ばれた作品が集まる、年に一度の成果を問う重要で貴重な機会となっています。また、前期と後期に版画コース全学科合同の講評会を行い、本校で版画を学ぶ学生がそれぞれその作品や制作姿勢から学びあう機会も設けています。



版画コースの学びについて

工房制

版画制作にはプレス機、腐蝕製版設備などを擁した工房が必要となります。そのため工房制での授業となります。3学科の異なる経験の学生が同じ工房で、課題や研究に応じた制作に取り組みます。技術の向上にも必要ですが、重要なことは共同の工房制作の中で見えてくる他者と自身の考え方や作品の捉え方の相違です。そのような経験を積む機会としての工房でありたいと考えています。

銅版画

タブレットでドローイングするようになった現代、それに歯向かうように、

手を汚しながら仕上げていく銅版画は、「つくる」という感覚を強烈に実感出来ます。反面、その技法とテクスチャーにより画面は魅力となりますが、それだけでは表現には至りません。魅力あふれる技法に溺れることなく、それを使い描き、それぞれの世界・イメージの確立を目指します。

木版画

最も古い版画形式である木版画は多色浮世絵版画として内外に広く知られています。伝統技法に加えて現代の版画作家たちが考案し試行してきた表現技法を自身の作品に活かした制作を目指していきます。現代の技法により水性

木版画ならではの紙を染める美しい色彩と描くような自在な表現、従来の木版画では表現できなかった絵画的な表情を持つ木版画が得られます。

リトグラフ

「平版」とも呼ばれ平らな版の上に描いたものがそのまま印刷できることから、多くの芸術家たちが表現方法として活用してきました。油性インクの色彩の重なりは作り手の絵画世界を見事に表現してくれます。また写真などを活用した版表現も可能です。リトグラフを通して描くことを根本から考え、制作工程によって作品を構造的に見つめる機会を得ることでしょう。

教員紹介



木村繁之 Shigeyuki Kimura
版画家

多摩美術大学大学院修了／文化庁在外研修員としてイギリス・ロンドンで制作〜'96／装丁・装画、新聞挿絵、絵本など多数制作／個展、美術館展示多数



今井庸介 Yosuke Imai
銅版画家

武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業／武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了／他展覧会、受賞歴多数



近藤英樹 Hideki Kondo
美術家

武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了／ハーグ王立美術アカデミーに研究生として在籍〜'04／他展覧会、受賞歴多数

学科ごとの学習領域

美術表現科と造形表現科

さまざまな描画材と異なる紙を用い自身の絵を探るドローイングを4月の授業開始から行います。次に、午前午後を通して美術大学版画科同様のカリキュラム（1版種4週間）の集中講座に取り組みます。リトグラフ・銅版画・木版の3版種を順に学び、基礎を習熟していきます。未経験の版種に触れることで新たな発見を得られることも多くありますので、既に版画経験のある方にも同様の授業を行います。後期からは自身の表現に合う版種でより高度な技法を探る自主制作を行います。自由に版種を選択しての制作、異なる版種を並行しながらの制作、複数版種の併用制作も出来ます。また、版画技法での作品だけではなく紙媒体のコラージュという技法を用い

て制作を展開させていきます。作品制作だけでなく、アーティストブック、ポートフォリオ制作、発表の為の様々な額装方法を指導します。

表現研究科

版画制作の基礎を経験し習得された方や専門版種を深く研究したい方には個々の制作計画を組みます。また美術・造形表現科同様に年間を通して作品に合わせた版種を自由に選択して制作することが出来ます。自身の作品をどのように進めるのか、なにを描きたいのか、どのような表現技法が完成度を上げるのかという制作命題を探ります。作家独自の技術技法指導、個展開催や版画コンクール出品に向けての制作アドバイスなど、それぞれに応じた指導をしていきます。

カリキュラム

春季 ドローイング・リトグラフ

スペースCTCにてコース展覧会開催

夏季 銅版画・木版画

合同講評会

秋季 版画によるコラージュ

選択版種による制作

冬季 全国大学版画展

合同講評会

修了制作

※上記は一例となります。

VOICE 在学生の声

入学を検討中の方へメッセージ

質の高い教員陣は、ひとりひとりに丁寧に専門的知識を指導してください。個性的で多様な価値観を持つ人が集う環境なので、スキルや発想を磨くことができます。存分に創作に打ち込める充実の設備で楽しく自己表現を制作できる環境が魅力です。

表現研究科／わたなべ淑子さん

技法と施設

技法：銅版画／木版画／リトグラフ。基本的なインクや紙は学内で販売しています。

施設：銅版画プレス機2台（170×80cm、90×45cm） リトグラフプレス機3台（74×62cm、70×55cm、105×75cm）
制作用机14台（180×90cm） 腐蝕室／シャーリング／大型アクアチントボックス／マップケース9台

共通授業

Art Fundamentals



美術を学ぶための「基礎力」をつける。

全コース対象の共通授業

本校の特色として、コースごとの授業とは別に、すべてのコースの学生が一堂に会して同じテーマやモチーフを用いた課題に取り組む、共通授業があります。共通授業では学生同士の親睦も深まりますが、課題の内容は主に基礎演習です。異なるコースに属する学生同士が、自分とは違う表現に触れることは良い刺激になり、同時に基礎演習を通して培り出される共通性を見出すことにもつながります。その共通性こそが美術に限らずあらゆる創作活動に求められる、表現の差異を超えた感情に訴える最も重要な力なのです。

3学科それぞれの目標値

共通授業では、全てのコースに共通して必要な美術教育の基本を学ぶことを目標に授業内容を構成しています。美術表現科では、デッサン道具の使い方など道具の扱いから始めます。造形表現科になると、基礎造形力を基盤により高度な授業へと内容が段階的に進んでいきます。表現研究科は、自由に研究制作するため特別な授業はありませんが、自由選択性で基礎を補うための人体デッサンの授業を設けています。

境界を越えて学ぶ意義

共通授業を通して自分の専攻分野以外の素材、分野にも興味を持つ学生も少なくありません。もとより一つのジャンル内でその問題を解決するにも限界があるでしょう。かつて西洋絵画が、アフリカンアートや浮世絵に活路を見出した事例はそのことを後世に伝えており、その必要性を嗅ぎ分ける力は基本という物差しにあると考えます。共通授業の重要性はこうした史実からも明らかなのです。

基本は自分を確認する上でも、おりに触れて一生演習していくべきものです。それは技術を安定して支え続け、現在の自分のレベルを知るためにも役立ちます。

オリジナリティの追求

ピカソはキュビズムという新しい分野を開拓するとき、タッチという絵具の最も基本的な手法を用いました。あのピカソでさえ革命を起こすのに不安を拭き切れなかったのです。基本を頼り、命綱として誰も通ったことのない暗闇



を歩き始めました。絵画史上最も革命的な運動は、最も基本的な技術がもたらしたとも言えるでしょう。真のオリジナルは基本地点に立ち戻り、自ら獣道に分け入ることではしか生まれないのかもしれませんが。また内容の画一性を避けるため、学生の傾向にも対応して、年度ごとに部分的な修正を図り今に至ってます。共通授業は学生の基礎力を培い、視野を広げます。ここでの学びは今後、制作の糧になってゆくことでしょう。

共通授業の例

解剖学概論

等身大の人体骨格見本と生身のモデルを比較しながら、身体の外側と内側の両面から作画を通じて人体の形の理解を深めていきます。骨格だけでなく筋肉を中心に内臓や神経にも視点を広げます。本校の人気授業の一つでもあります。

色彩構成

作品制作の際に色彩をコントロールする知識を養うことを目標としています。色相・明度・彩度など色に関する知識を深めることは、各々の作品意図を伝えるための表現の幅を広げる手助けとなります。

専門講座

実技の授業以外に個展などの制作発表に関わる講座や、美術全般に関する知識を学ぶための講座を用意しています。

額装について

キャンバス作品の仮額の作り方、紙媒体作品の様々な額装仕様や展示に関わる道具、備品類などの説明と展示体験講座。

著作権などについて

制作した作品を発表するにあたって注意すべき著作権や肖像権などについての理解を深める講座。

塑像

外観を輪郭的にあるいは表面上の質感のみで捉えるだけでなく、物の構造や量感、内部で動いた力の方向性と表面の質の関係などに着目する授業です。平面作品の制作だけでは得られない気づきがあります。

表現研究科の為の人体デッサン

全コースの表現研究科の学生を対象に基礎演習を補うことを目的として人体デッサンの機会を設けています。月1回の定期的な授業で参加は自由選択となり、モデルは女性・男性・ヌード・着衣などバランス良く予定されています。表現研究科の学生のテーマや表現方法は様々ですが、積極的に参加し各々の制作に生かしています。

題名について

作品に題名をつける際の考え方を、新旧の芸術作品に付けられた題名を基に分類して考察する講座。

美術館作品鑑賞

優れた芸術作品を鑑賞し、作品制作への刺激とすることを目的とした講座。事前学習を通して深い鑑賞の方法を学ぶ。

キャンパスライフ

※前年度までの内容です。2025年度は変更の場合もあります。



スケジュール

■ 学事 ■ 授業 ■ 展示									
4 ■ 入学式 ■ オリエンテーション ■ 健康診断	5 ■ 屋外スケッチ ■ 版画コース作品展	6 ■ 彫刻コース作品展 ■ 絵画コース作品展 ■ 日本画コース作品展	7・8 ■ 夏季休業 ■ 陶芸（自由選択） ■ 版画コース学生個展	9 ■ 美術館作品鑑賞（自由選択）	10 ■ 学園祭 ■ チャリティーオークション ■ 学園祭作品展示	11 ■ 個人面談 ■ 屋外スケッチ ■ 全国大学版画展	12 ■ 冬季休業 ■ 修了制作計画表作成 ■ 絵画コース作品展	1・2 ■ 修了制作 ■ 学園祭観客賞展 ■ 版画コース講師展	3 (月) ■ 修了式 ■ 春季休業 ■ 修了制作展 ■ 彫刻コース作品展

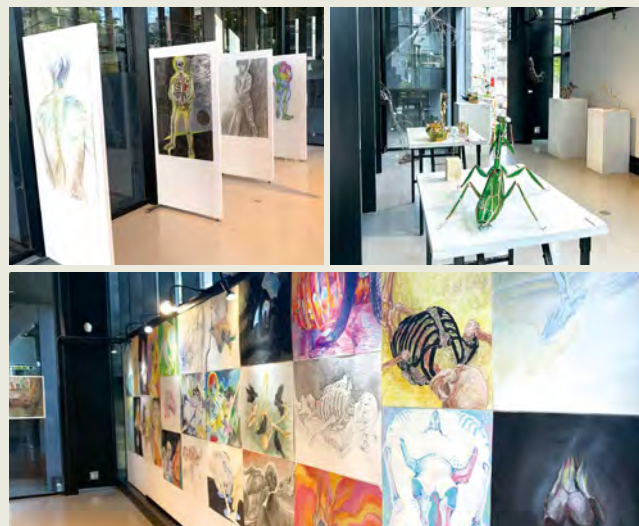
スペースCTCでの作品展

学内に併設されている「スペースCTC」では、年間を通して個展・グループ展など様々な作品展を開催しています。

明治通りから青山方面に抜ける通りに面した全面ガラス張りのこの施設は、展示作品に合わせて設置できる可動式壁面、彫刻作品のサイズに対応した各種展示台、作品を魅力的に照らし出す照明器具などの設備を備えた本格的なギャラリーです。

この空間に自分の作品を並べてみると、教室や工房で制作していた時には気付かなかった良い点や反省点が見つかることもあり、学生にとって展示・発表する機会はとても重要です。

そのような観点から、将来の個展や展覧会出品を見据えた額装・展示の仕方などの実践的な体験展示なども行っています。



学園祭

授業で取り組んだ課題作品や自主制作の作品など、在校生の作品が一堂に会します。家族や友人などに日ごろの成果を披露する機会となっています。作品展示だけでなく、学生による作品販売ブースや喫茶コーナーなどアットホームで楽しいイベントがあります。

チャリティーオークション

アートを通した社会貢献活動の一環として、学園祭と同時開催されます。在校生・修了生・教職員・一般の方など多くの賛同者からオリジナル作品を提供いただき、売上げの半額と出品料の合計を、渋谷区に寄付しています。

全国大学版画展

美術館で毎年開催されている版画学会主催の展覧会です。1974年に始まったこの展覧会は全国の美術大学・美術系教育大学・短期大学・専門学校で版画を学ぶ学生とその指導者にとって、年に一度の成果を問う重要な機会となっています。

2022年「優秀賞」(2名)「町田市立国際版画美術館賞」(2名)、2023年「町田市立国際版画美術館賞」



2023年度全国大学版画展受賞作品(美術館収蔵)

本校には様々な目的を持った学生が在籍しています。美術に関する技術を深め作品制作に没頭する人、さらに学びを深め作品の発表を目指す人、本校で学んだことを活かして美術大学や大学院へ進学する人など様々です。

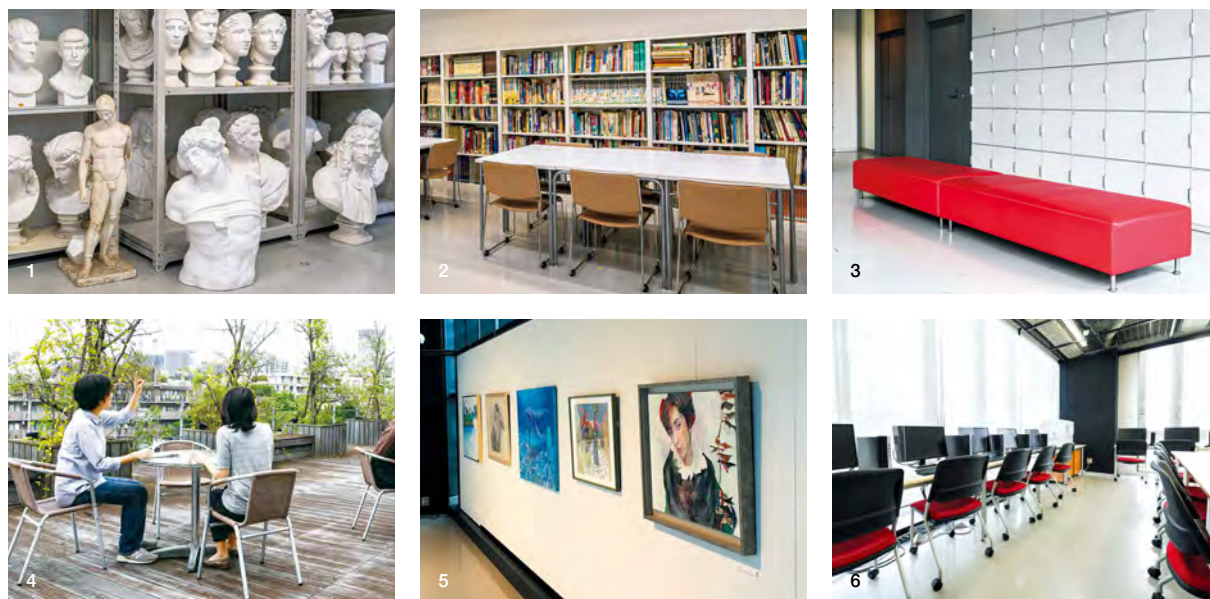
文化専門課程がスタートして7年目となり学生の学びの成果が表れてきました。公募展やコンクールでの入選・入賞者、

個展の開催やグループ展への参加、美術大学・大学院への進学者が年々増えています。

本校の入学時には美術を学んでみたいというシンプルだった目的が、カリキュラムに沿って学び指導を受ける中でより具体的になって次のステップへ進んでいます。本校にはそれらをサポートする体制が整っています。



施設・設備



1 自習でも使用できる石膏像 2 ライブラリー 3 専用のロッカー 4 ウッドデッキテラス 5 スペースCTC 6 PCスペース

本校校舎は、JR・私鉄各線の渋谷駅、地下鉄明治神宮前駅から徒歩8分ほどの場所に立つガラス張りのモダンな建物です。
明治通りから青山方面に向かうこのエリアは、学校やギャラリーなどが立ち並ぶ落ち着いた雰囲気の一部です。
学内には大作が制作できる「アトリエ」、彫刻や版画の為の「専用工房」、講義を行う為の「小教室」や自由に使用できる「ライブラリー」など授業を行うための施設、休憩のための

「学生ホール」や「ウッドデッキテラス」、各自の「専用ロッカー」もあります。
また、学生や教員によって展覧会が出来る本格的なギャラリーとして「スペースCTC」が設けられています。ギャラリー内には可動式の展示壁面やスポットライトが設置、立体作品用の展示台なども用意されています。
全面ガラス張りで外からの見通しも良い開放的な空間は、他に類を見ない好環境となっています。

地図・アクセス



〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-21-7
TEL. 03-3409-2661 (代表)
FAX. 03-3409-4811
E-mail: art@shibuya-and.tokyo
<https://www.shibuya-and.tokyo/art/>

交通アクセス

- 各線 渋谷駅【宮益坂口】徒歩8分
山手線・埼京線・銀座線・半蔵門線・田園都市線・井の頭線
- 東京メトロ 渋谷駅【B1出口】徒歩3分
東急東横線・副都心線・半蔵門線・田園都市線
- JR原宿駅【表参道口】徒歩10分
山手線
- 東京メトロ 明治神宮前駅【7番出口】徒歩8分
千代田線・副都心線
- 東京メトロ 表参道駅【B2出口】徒歩10分
千代田線・銀座線・半蔵門線

美術専科 附帯教育



わたしらしく、美術を学ぶ

週2日間（金・土曜）
美術の基礎から本格的な作品制作まで

絵画

油彩・水彩・
日本画など

彫刻

粘土・木・金属・
ガラス・テラコッタなど

版画

銅版画・木版画・
リトグラフなど

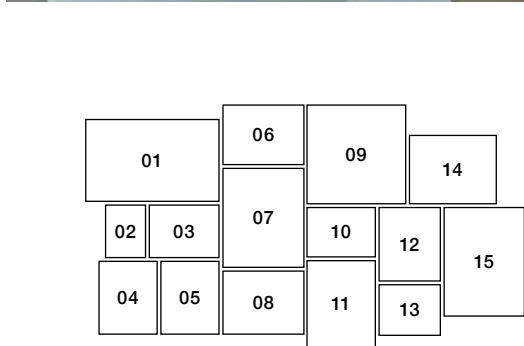
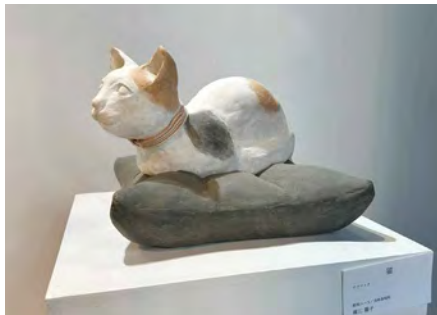
「絵画」「彫刻」「版画」の3つのコースがあります。
経験豊富な教員による指導と充実した施設・設備のもと、美術の基礎や、様々な技法を用いた作品制作までを安心して本格的に学ぶ事ができます。

- 金曜・土曜の週2日通学（夏季・冬季・春季休業あり）
- 授業時間は9:30～16:20（昼休み12:30～13:20）
- 面接による入学選考を行います。

【詳しく知りたい方はこちら】
公式サイト
[shibuya-and.tokyo/art/a-2days/](https://www.shibuya-and.tokyo/art/a-2days/)



作品集 美術表現科・造形表現科



01「彷徨う」LI JIAO (絵画)
02「静物着彩」LIANG JUANYI (絵画)
03「10月の公園」GUO SUPING (版画)
04「器」YANG YI (版画)
05「彼方へ」佐々木紀美子 (彫刻)

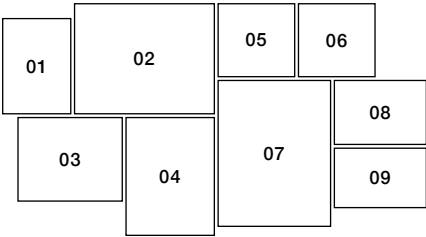
06「頭の上の毛」CHEN YUDIAN (版画)
07「人体構成」WANG TINGYU (絵画)
08「あの子の痕跡」YANG JINGQI (日本画)
09「37撰氏」SUN YUANYUAN (日本画)
10「猫」廣江麗子 (彫刻)

11「人物画」谷川秋子 (絵画)
12「夢」ZHANG XIN (日本画)
13「花瓶」ZHANG JIANI (彫刻)
14「蓮の葉に囲まれた女の子」LYU XIWEI (日本画)
15「トルソ」上島幸子 (彫刻)



01 「自意識」YOU ZIYING (版画)
02 「キス」SUN RUI (日本画)
03 「魔女の棲む森」須崎ちえみ (絵画)
04 「風はいつでもどこかヘイザナウ」石井喜代子 (彫刻)
05 「ドラとマリーと」長村隆 (彫刻)

06 「地中の呼応者 春」わたなべ淑子 (版画)
07 「相談中の人」WU WENHAO (日本画)
08 「けむしの休日」ZHOU QINGYI (絵画)
09 「2足歩行」松野淳 (彫刻)





& SHIBUYA FASHION ART COLLEGE

渋谷ファッション&アート専門学校

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-21-7
TEL. 03-3409-2661 (代表)
FAX. 03-3409-4811
E-mail: art@shibuya-and.tokyo
<https://www.shibuya-and.tokyo/art/>



公式サイト
はこちら

X (旧ツイッター) @shibuyaFAart